

2

主題	アセスメントをみんなで考えたら大きなうねりがやってきた。2015
副題	その日、ホーム長の平尾は「すごいね～」と何度も口にした

キーワード1：アセスメント		研究期間	12ヶ月
---------------	--	------	------

法人名	社会福祉法人三育ライフ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム白山		
発表者：山下 幸久	アドバイザー：なし		
共同研究者：五味 容子 ・ 平尾 明美			

電話	042-470-4630	FAX	042-470-4830
----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	グループホーム白山は、平成13年7月1日に開設したグループホームです。東久留米市滝山の白山公園のすぐそばにあります。「犬のいるホーム」としても地域に認知されており、地域の方々・子どもたちが立ち寄ってくれます。1ユニット9名の方が協力し生活しています。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

グループホーム白山ではアセスメントシートにセンター方式（全16枚あるうち）D1・D2シートを使用してきた。しかし、シート記入に際して「時間がかかる」「難しい」「どのように書いていいかわからない」との声が多くなってきた。その背景にはセンター方式について研修を受けた職員が異動になり伝達する機会が減った事、ここ1年半で4名の入職者があり介護経験が浅くアセスメント自体に不慣れだという状況があった。そんな中でアセスメントが適切に行われているのかという疑問や不安も生まれた。

アセスメントシートから生み出されるケアプラン。よりよい情報収集からより良い支援計画を生み出すために、アセスメントシートの見直しと職員教育が必要となってきた。

《2. 研究目標と期待する成果・目的》

職歴の差のあるどのような職員が使用しても「分かりやすい」「書きやすい」「納得できる」シートへの転換。アセスメントシートを新しくする事で利用者自身の情報を洩れなく簡潔に記載できるもの、また、グループホームという施設の特質やグループホーム白山の実情に合った独自のシート作りを目指した。

ただ、シートは無論万能ではなくアセスメントの道具である。あくまで運用する職員の視点が的確でなければアセスメントは適切に行われない。新シートを運用するうえでアセスメント行う職員の視点の強化が期待される。

《3. 具体的な取り組みの内容》

☆アセスメントシート完成まで

①他のグループホームではどうしているのだろう。何かヒントや助言がもらえないかという思いから、市内にある近隣のグループホーム

ムに問い合わせしてみた。担当者から話を聞く事ができた。

- ・会議の時間をもち、短時間でもアセスメントを行っている。
- ・アセスメントに時間がかかる。
- ・殆ど一人でアセスメントシートに記入している。

グループホーム白山と同じ悩みを抱えている事がわかった。(他ホームよりアセスメントシートの提供を受ける)

②アセスメントシート作成のための検討会
介護福祉士会等から3種類のシートを用意した。実際に1名の利用者のアセスメントを行いそれぞれのシートを読み比べ、必要項目の確認を行った。比べていくうちに、グループホームならではの生活の場面の項目が無く、そのままでは使えない事がわかった。職員から意見を収集し、シートの必要項目の確認を行う。このような作業を経て、グループホーム白山独自の新しいシートを完成させた。

☆新アセスメントシートを運用するための勉強会

- ①平成27年3月2日 ICFの勉強会
職員の視点強化として
- ②平成27年8月4日 勉強会開催
アセスメントの意義について。(新アセスメントシート使い4名の方のアセスメントを行う)
- ③平成27年9月4日 勉強会開催
(新アセスメントシートを使い2名の方のアセスメントを行う)

《4. 取り組みの結果》

8月4日新アセスメントシートを使用した検討会では職員個々の理解度・視点の調整に取り組んだ。その結果、利用者のできる事、支援が必要な事についてばらつきがある現象が判明した。

新アセスメントシートにある「記憶」の項目については<記銘><想起>などの言葉の意味について理解できていない職員もあり、人

間の記憶について知識と理解を深める。項目「他者の理解」については、相手に対する認識力についてどこまで含めるのか。

職員間で認識を一致させる事が必要であった。

《5. 考察、まとめ》

今回アセスメントをテーマとし取り組む中で、職員それぞれの認識力に差がある事が分かった。よりよいケアプランを生み出すために、欠かせないより良いアセスメントが何より必要である。今後も利用者の視点に立ったアセスメントに力を入れていきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、写真の使用について本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、解答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

日本介護福祉士会アセスメントシート1-1
アセスメントシート2-2

《8. 提案と発信》

